

短 報

聖路加国際大学フューチャー・ナースファカルティ 育成プログラム実施報告・1

奥 裕美¹⁾ 松谷美和子¹⁾ 三浦友理子¹⁾ 吉田 千文¹⁾ 八重ゆかり¹⁾
永森久美子¹⁾ 池口 佳子¹⁾ 倉岡有美子¹⁾ 大隅 香¹⁾ 佐藤 晋巨¹⁾
森島久美子¹⁾ 森川 雪絵¹⁾ 長岡 陽子¹⁾

Progress Report on the Future Nurse Faculty Development Program at St.Luke's International University・1

Hiromi OKU¹⁾ Miwako MATSUTANI¹⁾ Yuriko MIURA¹⁾ Chifumi YOSHIDA¹⁾ Yukari YAJU¹⁾
Kumiko NAGAMORI¹⁾ Yoshiko IKEGUCHI¹⁾ Yumiko KURAOKA¹⁾ Kaoru OHSUMI¹⁾ Kuniko SATO¹⁾
Kumiko MORISHIMA¹⁾ Yukie MORIKAWA¹⁾ Yoko NAGAOKA¹⁾

[Abstract]

The Future Nurse Faculty Development Program (FNFP) is a project to train graduate students to be nursing faculty by strengthening their function in specific areas of teaching. This is a three-year project, which has been granted by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, began in 2013. The following report describes the FNFP and summarizes its progress from inception until October 2014.

The FNFP consists of four programs : (1) clinical nurse specialist program (CNE course); (2) support programs to develop competence in teaching (SPCT); (3) research contribution (SPRC) and (4) social contribution (SPSC). The CNE course is a master's course in advanced practice in nursing education ; in 2014 five students are enrolled in this course. The SPCT is comprised of (a) teaching seminar (TS), (b) teaching assistance (TA) workshop (TAWs), and (c) TA mentoring program. The TS and TAWs began in September 2014. After participating in both the TS and TAWs, students share their education experience with their mentor in the TA mentoring program. As for SPRC, we held workshops, and for SPSC we make opportunities for students to know the social contribution of faculty and staff members. FNFP is progressing as scheduled based on the master planning.

[Key words] nursing education, nurse faculty, future nurse faculty development program

[要 旨]

本学のフューチャー・ナースファカルティ育成プログラム (FNFP) は、文部科学省が推進する看護系大学院における教員養成機能を強化する取り組みとして 2013 年度に採択された事業である。本稿では、FNFP 事業の概要と、ここまでの実施内容を報告する。

FNFP 事業は、CNE コースおよび、教育力、研究力、社会貢献活動力開発プログラムの 4 つから成る。CNE コースは看護教育学の上級実践 (修士課程) コースであり、今年度は 5 名の学生が入学した。教育力開発プログラムは、「教育学セミナー」「TA ワークショップ (TAWs)」「TA 活動メンタリング」の 3 つから構成される。2013 年度 3 月には TAWs を、2014 年 9 月には教育学セミナー、TAWs を実施した。大学院学生は、教育学セミナーおよび TAWs に参加の後に TA を行い、教育経験をメンターと共有し、

1) 聖路加国際大学 2014 年度 FNFP 委員会 St. Luke's International University, 2014 Future Nurse Faculty Development Program Committee

TA 活動メンタリングを行う。研究力開発プログラムでは研修会を2度開催した。また、社会貢献活動力開発プログラムは、教職員の社会貢献活動を大学院生が知る機会となっている。2013年度プログラム採択時に策定した基本的構想に基づき、ほぼ計画通りに進行している。

〔キーワード〕 看護教育、教員養成、フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム

I. はじめに

高齢化の進展する先進諸国では、ニーズの高まる医療を支える専門職者としての看護師への期待は高まる一方である。また、看護学教育の高等教育化は世界的な動きであり、わが国でも資質の高い看護職の養成を担うべく、看護系大学の数が急増している。しかし、大学教員の「教える力」の育成は十分なされてきているとは言えず、提供される教育の質保証において課題がある。そのような中、本学のフューチャー・ナースファカルティ育成プログラム（以下、FNFPとする）は、平成25年度文部科学省大学改革推進等補助の対象となる看護系大学教員養成機能強化事業に採択され、平成27年度までの3年間、補助金を受けて看護系大学院における教員養成機能の強化を図るための取り組みを推進することとなった。

初年度の平成25年は、9月に事業採択決定通知があり、実際の予算執行は11月からであったため、後期に活動が集中した。看護教育学上級実践コース（Clinical Nurse Educator ; CNE コース）のカリキュラム構築および入学生選抜を実施した。また、大学院学生がTA活動の準備等のために使用する実習室を整え、運用を開始した。3月には、オープンレクチャーおよび第1回教育学セミナーを実施し、初年度事業の評価会を開催した。評価会では、多彩なプログラムに対する関心が寄せられ、翌年度以降の事業に向けた改善点への示唆があった。主なものは、CNE コースのカリキュラムに含めるべき学修内容に関する意見、事業内容のさらなる具体的な発信および市民にも分かりやすい広報をもとめる意見であった。本報告は、FNFP 事業の概要と、ここまでの実施内容の第一報である。

II. FNFP 事業の計画

平成25年度に基本的構想を策定し、現在進行中のFNFP 事業計画は図1の通りである。ここまで、ほぼ計画通りに進行している。

III. FNFP 事業の概要

FNFP は、CNE コース、および、教育力、研究力、社会貢献活動力開発プログラムの4つの事業で構成され

ている（図2）。

1. CNE(Clinical Nurse Educator) コース

実践力に優れ、臨床に軸足を置きながら、研究成果を実践に導入していく力と、学習者の能力開発を支援する力を併せ持つ人材の育成を目的とした、看護教育学の上級実践コース（修士課程）である。開講年度である2014年度は、5名の入学者があり、全員が所属組織（聖路加国際病院）の推薦を受けて入学した。看護教育学関連科目、研究を理解するための基盤科目、看護管理学関連科目のほか、臨床での実践力を向上することを目的に、応用形態機能学、フィジカルアセスメント等の科目や、学生の臨床領域に合った科目の特論科目等を履修している。また、学部生の演習や実習指導にも教学補助者（TA）として関わるなど、課外の教育活動も行っている。

2. 教育力開発プログラム

教育力開発プログラムは、すでに本学で運用されているTA 制度を基盤として構築した。これまで学生がTAを行う場合、依頼した教員がその教育補助業務に必要なオリエンテーションをそれぞれの裁量で実施していたが、看護教育や学習支援に関する知識を公式に付与するという機会はなかった。また、TA 経験の後に、教育実践をフォーマルに振り返る機会はなく、経験の意味付けを行うことは困難であった。そこで、本事業では事前準備にあたるセミナーの開催とTA 後のメンタリングを実施することにより、教育力の開発を図るプログラムを構築した。

講義展開力の向上を目指す「教育学セミナー」、実習・演習での教育力向上を目指す「TA ワークショップ」、TA 経験を教育力の改善と向上につなげる「TA 活動メンタリング」の3つから構成されており、教育学セミナー、TA ワークショップ、およびTA メンタリングの参加（2事例以上）によって認定証を発行する。これはTA 経験だけにとどまらず、教育に対して複合的に準備性を高めた証書となり、2014年10月時点で1名の大学院生が認定証の発行を待っている状態である。

1) 教育学セミナー

東京大学で行われているフューチャー・ファカルティ・プログラム（FFP）の協力を得て、昨年度より開催している。実施にあたっては、東大 FFP オリジナルである「大

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2013年度						CNEカリキュラム構築 カリキュラム構築に伴う学則変更			CNE 1期入試 Web.サイトの開設		CNE 2期入試			プログラム 評価
									実習室の整備					
									TAプログラム構築		E-learning教材選定・準備			
									TA・研究活動メンタリングシステムの構築			教育学セミナー		
									看護系大学教員養成に関するシンポジウム 看護教育学専門家によるコンサルテーション					
2014年度	教育力			教育学セミナー/スピンオフセミナー		TAワークショップ								プログラム 評価
									TA活動メンタリング					
	研究力				研究力開発に関するセミナー①			研究力開発に関するセミナー②						
									研究活動メンタリング					
	社会貢献活動力								社会貢献活動シャドウイング					
CNEコース		看護教育学特論Ⅰ		看護教育学演習Ⅰ				看護教育学特論Ⅱ				看護教育学演習Ⅲ		
その他		ロゴマーク作成、FNFP通信発行開始		ランチ講座①	ランチ講座②		facebook開設		ランチ講座③		看護教育シンポジウム 看護教育コンサルテーション			

図1 フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム 事業計画 (2013-2014)

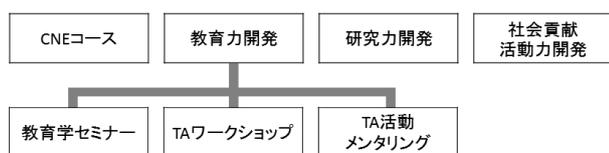


図2 フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム事業の構成

学教育開発論」2単位30時間の講義を、2日間約11時間に集約したプログラムを構築している。昨年度は20名（博士学生5、修士学生13、教職員2）、今年度も20名（博士5、修士13、教職員2）が参加した。

参加者は事前に、看護学の初学者に行うという設定で、内容は自由に6分間の授業を作成する。セミナー1日目、大学教育に関するレクチャーの後、小グループに分かれて準備してきた授業を発表し、グループメンバーからのフィードバックを受ける。その後、授業の方法に関するレクチャー、さらに、録画した自分の授業の様子を見て、授業の改善策を練る。そして2日目に、改善した授業を

発表する。2日目の授業は1日目のそれに比べて、目標（話題）の焦点化、内容の構成、資料の見やすさなどにおいて見違えるように質が向上しており、改善を実感したという感想をもつ参加者が多かった（写真1）。そのほか、シラバスならびに評価に関するレクチャーやワークが行われ、短期間で集中して教育に関する知識と技術のエッセンスが学べる2日間のコースになっている（表1）。

また、今年度から新たにスピンオフプログラムとして、構造化アカデミックポートフォリオ（SAP）チャート作成セミナーを開催した。これは、主に昨年度教育学セミナーを修了したものや、教員経験をもつ大学院生を対象に行った1日（7時間）のセミナーである（表2）。SAPチャートの作成の目的は、これまでの教育者としての活動（教育、研究、社会貢献）を振り返り、各活動の関連性に気づき、今後の目標を定めることである。参加者は9名（博士3、修士1、昨年度修了生1、教職員4）であった。



写真1 教育学セミナー模擬事業1日目(左)と2日目(右)の様子
2日目のほうが聴衆が参加し、動きのある講義になっている様子がわかる。

表1 教育学セミナープログラム

	1日目 9月6日(土)10:00-16:30	2日目 9月8日(月)10:00-16:30
午前	プログラムのoverview 模擬授業(1)	模擬授業(2)
午後	モチベーション 授業デザイン	アクティブラーニング シラバス 学習の評価 まとめ

表2 教育学セミナースピノフプログラム

9月13日(土)10:00-16:30	
午前	オリエンテーション SAPチャート作成 質問タイム
午後	SAPチャート作成 プレゼンテーション まとめ

表3 TAワークショッププログラム

	1日目 9月24日(水)10:00-16:00	2日目 9月25日(木)10:00-16:30
午前	オリエンテーション 学生とは 実習とは 実習要項を読み解く 実習場所を知る・場の人々と 関係性をつくる	知識を看護実践として具現化 する 学習を支援する(Ⅱ)
午後	目標を把握する 知識を看護実践として具現化 する 学習を支援する(Ⅰ)	学習を評価する 学生が遭遇する倫理的問題に 対応する リフレクションシートの作成 まとめ

2) TA ワークショップ

TA ワークショップは実習の準備、教育実践、および省察による教育活動改善という各段階で、必要とされる知識やスキルを学ぶ、12.5時間、2日間にわたるワークショップである(表3)。シミュレーション学習や協同学習など参加者間の相互作用を促進する方法論を取り入れて行った。17名(博士4、修士13)が参加した。

3) TA 活動メンタリング

TA 活動メンタリングは、教育学セミナーおよびTAワークショップにより教育に対する準備を行ったうえでTAを行い、この経験を教育の改善に活かすために行われるプログラムである。参加者は、リフレクションシートに教育経験の一場面についての状況を記述した後、「なぜそうしたのか」「なぜそうなったのか」という分析と、次に類似した状況が起きたときの対応を考察する。これをメンターと共有し、教育経験を意味づけすることにより今後の教育活動の改善および向上に活かす。

教育学セミナー、TAワークショップ終了後約1カ月

の現時点で、5通のリフレクションシートが提出されている。メンターは、本事業の担当教員が行っており、リフレクションシートの内容について、教育活動の改善および向上を促進するという視点で、精読し、コメントを返している。

3. 研究力開発プログラム

研究活動のメンタリングや、研修会の実施により、研究者としての力量を強化するプログラムである。研究活動の支援については、大学院生および教員にも求められているものであり、FDSD委員会との共催による研修会を2回開催した。1回目は、主に若手研究者を対象とし、魅力的な研究計画書の書き方をテーマにした。2回目は、看護学研究の新たな分野開拓を目指し、実験研究や疫学研究、ビッグデータ研究についての研修会を行った。第1回目は69名、2回目は29名が参加した。

4. 社会貢献活動力開発プログラム

大学教員の役割の1つに社会貢献活動がある。特に本学教職員は国、地方自治体、学会等で責任ある任務をしている者が多く、そこに同行することから教育・研究活動の社会的意義を学ぶことができる。このプログラムで

は教職員の社会貢献活動に大学院生がオブザーバーとして参加し、社会が教育者・研究者に期待しているものは何であるかを考える機会を提供している。教職員に対し、学会、委員会、省庁の審議会、地域での活動などで、大学院生が参加できる可能性があるものについて機会の提供を要請し、これらの情報について、逐次大学院生に通知している。10月30日までに17件のシャドウイングの機会を設けることができています。また、参加した大学院生にはリアクションペーパーの作成、シャドウイングによって学んだことの記録をポートフォリオに含めるよう推奨している。

教員の専門的知識がどのように社会に貢献するのか、国や地方自治体の委員会がどのような場で行われ、どのような人が出席しているのかなどを、直接目にして学ぶことになるため、参加した大学院生の満足度はとても高いが、実際には日程調整が困難であることが多く、参加したくてもできないという声も聞かれている。しかし、社会貢献活動シャドウイング参加者募集の通知によって、教員が実に様々な社会的役割を担っていることを、大学院生が知ることもつながっている。

IV. FNFP 事業の周知

当初の計画には含まれていなかったが、本格稼働1年目の今年度は、まずは本事業について周知し、計画しているプログラムに積極的に参加してもらえよう広報活動にも力を入れている。6月にはロゴマーク(図3)を作成し、9月にはfacebook ページを立ち上げた(<https://www.facebook.com.SLIUFNFP>)。

また大学院生に対しては、入学時のオリエンテーションをはじめ、大学院生を対象にした「ランチタイムミニ講座」を企画・実施している。昼休みの時間に気軽に参加できる30分程度の会合であり、本事業の周知をはかるとともに、大学院生からの意見や本事業に対する要望も聞くことができる、貴重な機会である。また8月からは教職員に対しても、事業の進行やイベント情報等を記載した「FNFP 通信」の発行を開始した。

V. FNFP 事業の今後の予定と課題

2年目の半分が終わり、本格稼働1年目後期の事業が進んでいる。CNE コースの学生は、必修科目「看護教育学演習Ⅱ」として、学部教育課程の科目である「臨床



図3 ロゴマーク

看護総合演習」(4年生/選択科目)の企画、実施、評価に参画しており、学部教育と連携して行われる学習プログラムが始まったところである。この後も演習Ⅲ、CNE 実習など、CNE が正規の学部教育に参加しながら学ぶプログラムが引き続き計画されており、学部科目担当者との連携が必要となってくる。また、教育力開発プログラムにおいては、引き続き多くの大学院生が主体的に参加し、教育力を開発することができるよう、実施時期や回数、実施方法、内容を工夫していきたいと考えている。研究力開発プログラムでは、全体に向けた講習会の実施だけではなく、具体的に学生の研究活動を支援する方法についても、検討していくとともに、社会貢献活動力支援プログラムへの教職員の理解と協力を求め、引き続き多くの機会を学生に提供していきたいと考えている。

FNFP 事業全体の本格的始動から半年が過ぎ、プログラム内容が充実してきている。現在の事業の運営には大学の支援体制があることはもちろん、参加者である大学院生がこのプログラムの重要性を認識し、主体的に参加し、共に事業を作っていくという意識も持っていることが、非常に重要な点であると考えている。今後は、CNE 教育課程を含む4つのプログラムの成果を多方面から評価し、改善を行って着実に推進していく。また、本事業の展開については、今後できるだけ具体的に経過を公表していく。これにより、全国の看護系大学が教育の質を高めるための教員養成の知を共有できるサイトの提供と看護教育の知、特に実践教育の知に関する研究の拠点を形成していきたいと考えている。

参考文献

松谷美和子, 三浦友理子, 奥裕美. (2014). 看護系大学教員育成の新しい風 聖路加国際大学のフューチャー・ナースファカルティ育成プログラム. 看護教育, 55(11), 1042-1048.